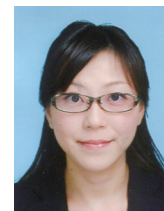


主体的なキャリア形成を支える 心理的レジリエンスと その育成環境の解明

基礎教育センター
講師
小田部 貴子



研究シーズの紹介

日本型雇用慣行に基づく典型的なキャリア形成モデルが崩壊した今、激変する社会環境の中で、自らのキャリアを主体的に構築していくことが求められている。しかし、自ら考え、選び取り、新たな課題に挑戦して経験を積んでいくことは、それほど簡単ではない。多くの場合、失敗や困難に遭遇し、一時的に「もうダメだ」「自分には無理だ」というように心が折れそうになることも多い。そうした状況から心理的に回復し、再びも

のごとに向き合い再開する力やプロセスを「心理的レジリエンス」(以下、PR)と呼ぶ。本研究では、大学でのキャリア形成、すなわち学習他多様な活動の積み重ねにおいて、(1) 学生はどのような場面でPRを発揮しているのか、(2) どのような経験や環境がPRを促進・育成するのか、を解明することを目的とする。



レジリエンスプロセスを可視化

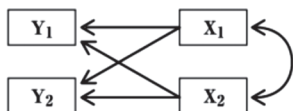
- 学生のレジリエンスプロセスを複数パターンに整理
- 心理的レジリエンスを高める状況や場面のエッセンスを見出す

〈こんな研究をしています〉

インタビュー調査>Aによる分析



定量的データを用いたパスモデル
検証やテキスト解析



モデル作成

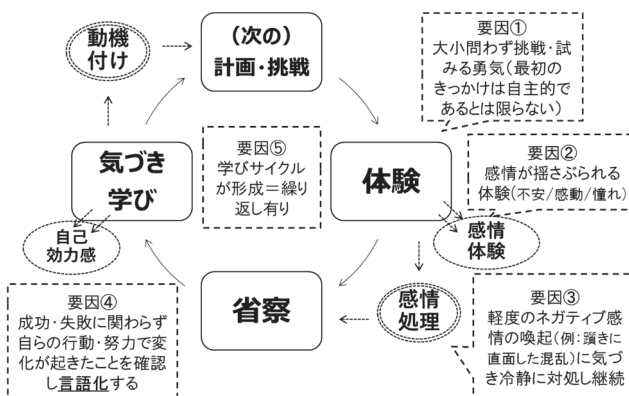


Fig. 1 モデル例: レジリエンスプロセスを促す要因

インタビュー調査(N=10)及質問紙調査(自由記述: N=153)の結果、大学で学習その他の活動においてレジリエントに学び、経験を積み重ねていくプロセスで見いだされる要因を見出し、モデル化したものである。

期待される活用シーン

- 何事にも主体的になれない学生がいる・・・なぜ?
- 若手社員が仕事のことで落ち込んでしまった。支援の仕方が分からない。

人事・教育係



モデルやデータに基づいて、若者がどのように心理的に悩み、どのように精神的に成長するかを理解できます。



面談・支援の手がかり

- しなやかな強さを持った学生を育てたい! 何に気を付けて授業設計や運営を行ったら良いのだろうか?

教員



レジリエンスを高めることを意図した授業開発やカリキュラム設計のヒントが得られます。例) ボランティア/インターシッププログラム



体験型授業プログラムの設計

その他の研究テーマ

大学教育環境で育まれるキャリア形成マインドが企業参入・適応過程にもたらす影響
越境的説明力を育む学習環境デザインの構築と技能改善プロセスの解明